

資料 2

第9次愛知県卸売市場整備計画の推進について

1. 第9次愛知県卸売市場整備計画の概要

区 分		策定時（平成23年8月）				目 標（平成27年度）									
		卸売市場法上の区分				卸売市場法上の区分				整 備 計 画 上 の 区 分					
		中央 市場	地方 市場	規模 未満	合計	中央 市場	地方 市場	規模 未満	合計	中核 市場	拠点 市場	地区 市場	産地 市場	合計	
総合市場	青果・水産・花き						2		2		2			2	
	青果・水産	2	4		6	2	4		6	2	4			6	
	青果・花き						1		1		1			1	
	小 計	2	4		6	2	7		9	2	7			9	
青 果 市 場			22	1	23		11		11		2	9		11	
水 産 消 費 地 市 場			(3) 4	(0) 1	(3) 5		2		2		1	1		2	
水 産 産 地 市 場			13	4	17		11		11				11	11	
食 肉 市 場		1	2		3	1	2		3	2		1		3	
花 き 市 場			8	9	17		3		3	2		1		3	
合 計		3	(52) 53	(14) 15	(69) 71	3	36	0	39	6	10	12	11	39	

(注) カッコ内数値は、平成24年12月1日現在

○第9次愛知県卸売市場整備計画のポイント

(1) 卸売市場関係事業者の経営の改善・安定を図るため、引き続き整備・統合を推進

(2) 地方卸売市場の機能強化

ア 生産者や消費者との交流や連携を通じた、地域に密着した生鮮食料品等流通の推進

イ 合理的な取引方法の設定、原産地表示の徹底による公正かつ効率的な取引の実施

ウ 食の安全・安心に対する関心の高まりや生産者・実需者の多様なニーズに応えるため、コールドチェーンシステム構築等、施設の充実及び施設に応じた管理体制強化を促進

エ 情報化の推進

オ 市場間連携や情報受発信機能等の強化等による集荷・販売力の強化

カ 社会的要請への対応や生産者・消費者の信頼の確保のためコンプライアンスの徹底

キ 卸売市場全体の経営戦略を確立し、市場関係者が一体となった市場運営の取組を推進

2. 県内における市場数、取扱量及び取扱高の推移

(1) 青果物

区分	13年	18年		19年		20年		21年		22年	23年				
		市場数	前年比 (%)	前年比 (%)	前年比 (%)	前年比 (%)	前年比 (%)	前年比 (%)	前年比 (%)		18年比 (%)	13年比 (%)			
中央市場	野	481,994	449,674	99	443,502	99	436,134	98	428,591	98	399,051	93	399,615	100	89
	菜	86,413	88,739	104	85,519	96	85,662	100	84,006	98	89,555	107	83,839	94	94
	果	231,868	159,086	80	151,707	95	149,216	98	143,335	96	131,042	91	128,550	98	81
	実	60,208	49,658	93	49,269	99	44,457	90	41,196	93	41,499	101	40,798	98	82
地方市場	合	713,862	608,760	93	595,209	98	585,350	98	571,926	98	530,093	93	528,165	100	87
	計	146,620	138,397	99	134,788	97	130,119	97	125,202	96	131,054	105	124,637	95	90
	市場数	35	28	90	28	100	27	96	26	96	26	100	26	100	93
	野	242,787	203,498	97	196,553	97	193,245	98	193,333	100	180,571	93	176,276	98	87
中央市場	菜	38,289	34,082	99	33,013	97	33,990	103	33,707	99	36,007	107	32,311	90	95
	果	108,227	82,977	87	80,180	97	84,959	106	80,419	95	68,753	85	64,524	94	78
	実	23,112	19,670	98	19,321	98	18,451	95	16,787	91	16,138	96	15,441	96	79
	合	351,014	286,475	94	276,733	97	278,204	101	273,751	98	249,325	91	240,799	97	84
地方市場	計	61,401	53,752	99	52,334	97	52,441	100	50,493	96	52,145	103	47,753	92	89
	野	724,781	653,172	99	640,055	98	629,379	98	621,924	99	579,622	93	575,891	99	88
	菜	124,701	122,821	102	118,532	97	119,652	101	117,713	98	125,562	107	116,151	93	95
	果	340,095	242,063	82	231,887	96	234,175	101	223,754	96	199,795	89	193,073	97	80
合計	実	83,319	69,328	94	68,590	99	62,908	92	57,983	92	57,637	99	56,239	98	81
	合	1,064,876	895,235	94	871,942	97	863,554	99	845,677	98	779,418	92	768,964	99	86
	計	208,021	192,149	99	187,122	97	182,560	98	175,695	96	183,199	104	172,389	94	90
	取扱量	67.0	68.0	-	68.3	-	67.8	-	67.6	-	68.0	-	68.7	-	-
中央市場	取扱量	33.0	32.0	-	31.7	-	32.2	-	32.4	-	32.0	-	31.3	-	-
	取扱高	70.5	72.0	-	72.0	-	71.3	-	71.3	-	71.5	-	72.3	-	-
	中央	29.5	28.0	-	28.0	-	28.7	-	28.7	-	28.5	-	27.7	-	-
	地方														

○取扱量・取扱高
野菜については、中央市場・地方市場ともに減少傾向にあり、中央市場では、10年前と比べると、1～2割の減となっている。
同様に地方市場では、2～3割の減となっている。

果実については、中央市場・地方市場ともに減少傾向にあり、中央市場・地方市場ともに10年前と比べて、3～4割の減となっている。

(2) 水産物

区 分	13年	18年		19年		20年		21年		22年		23年			
			前年比 (%)		前年比 (%)		前年比 (%)		前年比 (%)		前年比 (%)		前年比 (%)	18年比 (%)	13年比 (%)
中	市場数	2	2	100	2	100	2	100	2	100	2	100	2	100	100
	取扱量(ト)	261,564	139,039	60	133,218	96	126,495	95	122,488	97	113,421	93	106,781	93	76
	取扱高(百万円)	185,543	112,563	68	108,581	96	105,856	97	94,119	89	90,302	96	87,538	97	78
央	市場数	11	9	90	9	100	8	89	8	100	8	100	8	100	89
	取扱量(ト)	33,946	28,728	93	25,024	87	21,771	87	18,553	85	17,209	93	17,018	99	59
	取扱高(百万円)	25,944	22,341	98	19,759	88	17,156	87	14,518	85	13,732	95	13,502	98	60
方	取扱量(ト)	295,510	167,767	64	158,242	94	148,266	94	141,041	95	130,630	93	122,799	94	73
	取扱高(百万円)	211,486	134,904	72	128,340	95	123,012	96	108,637	88	104,034	96	101,040	97	75
	計														
中	取扱量(%)	88.5	82.9	-	84.2	-	85.3	-	86.8	-	86.8	-	86.1	-	-
	中央														
	地方	11.5	17.1	-	15.8	-	14.7	-	13.2	-	13.2	-	13.9	-	-
の央	割地														
	取扱高(%)	87.7	83.4	-	84.6	-	86.1	-	86.6	-	86.8	-	86.6	-	-
	中央														
合方	地方	12.3	16.6	-	15.4	-	13.9	-	13.4	-	13.2	-	13.4	-	-

※地方市場については、水産物卸売市場は除外している。

(3) 食肉

区 分	13年	18年		19年		20年		21年		22年		23年				
			前年比 (%)		前年比 (%)		前年比 (%)		前年比 (%)		前年比 (%)		前年比 (%)	18年比 (%)	13年比 (%)	
中	市 場 数	1	1	100	1	100	1	100	1	100	1	1	100	100	100	
	取扱量(ト)	11,080	11,811	99	21,317	180	24,344	114	24,555	101	24,340	99	23,891	98	202	216
央	取扱高(百万円)	7,540	9,782	98	17,050	174	19,366	114	17,011	88	17,134	101	17,258	101	176	229
	地 市 場 数	3	2	67	2	100	2	100	2	100	2	100	2	100	100	67
方	取扱量(ト)	103,712	28,835	80	21,398	74	20,240	95	20,743	102	21,549	104	21,768	101	75	21
	取扱高(百万円)	72,435	22,221	88	14,188	64	12,241	86	10,575	86	12,369	117	12,394	100	56	17
合	取扱量(ト)	114,793	40,646	85	42,715	105	44,384	104	45,298	102	45,889	101	45,659	99	112	40
	取扱高(百万円)	79,975	32,003	91	31,338	98	31,507	101	27,586	87	29,503	107	29,651	101	93	37
計	取扱量(%)															
	中央	9.7	29.1	-	43.9	-	54.6	-	54.2	-	53.0	-	52.3	-	-	-
の央	地方	90.3	70.9	-	50.1	-	45.4	-	45.8	-	47.0	-	47.7	-	-	-
	取扱高(%)															
割地	中央	9.4	30.6	-	54.6	-	61.3	-	61.7	-	58.1	-	58.2	-	-	-
	地方	90.6	69.4	-	45.4	-	38.7	-	38.3	-	41.9	-	41.8	-	-	-

(4) 花き

区分	13年	18年		19年		20年		21年		22年		23年		
		市場数	前年比 (%)	市場数	前年比 (%)	市場数	前年比 (%)	市場数	前年比 (%)	市場数	前年比 (%)	18年比 (%)	13年比 (%)	
地		12	100.0	13	108.3	13	100.0	13	100.0	13	100.0	8	61.5	66.7
取得高(百万円)		35,654	97.8	32,778	99.7	29,454	89.9	28,124	95.5	27,169	96.6	26,632	98.0	81.0
														74.7

資料：名古屋市の食料卸売市場年報
愛知県地方卸売市場年報

○取扱量・取扱高
中央市場・地方市場ともに大幅に減少しており、10年前と比べると、中央市場では5～6割減、地方市場では5割程度の減となっている。

○取扱量・取扱高
中央市場では、合併により、名古屋中央卸売市場南部市場が開設されたことにより、平成19年に大幅に増加しており、10年前と比べると倍増となっている。
一方、地方市場では、中央卸売市場との合併により、市場が減った影響もあり、10年前と比べると8割程度の減となっている。

○取扱高
減少傾向にあり、10年前と比べると3割程度の減となっている。

3. 地方卸売市場で業務を行う卸売会社の決算状況

		経常利益		純資産比率		流動比率	
年度	会社数 ①	うち赤字 ②	割合％ ②／①	うち0.1 未満 ③	割合％ ③／①	うち1.0 未満 ④	割合％ ④／①
17年度	61	17	27.9	12	19.7	18	29.5
18年度	57	17	29.8	12	21.1	16	28.1
19年度	57	18	31.6	12	21.1	17	29.8
20年度	56	17	30.4	10	17.9	14	25.0
21年度	55	25	45.5	10	18.2	14	25.5
22年度	51	15	29.4	9	17.6	15	29.4
23年度	50	23	46.0	10	20.0	17	34.0

※ ＜年度の考え方＞

決算期は、各卸売会社で異なるため、当該年の4月から翌年の3月までに決算期末が到来するものを、当該年度として整理した。

注) 1. 純資産比率：自己資本／総資本

純資本比率とは、総資本のうち、返済不要の自己資本がどれぐらいの割合かを見る指標

純資産比率が高いほど、借金の依存度が低く、財政が健全であるといえる。

(0.1未満の市場は改善するよう指導している)。

2. 流動比率：流動資産／流動負債

流動比率とは、流動資産と流動負債の金額を比較することで企業の短期的な支払い能力を判断する指標

流動資産が流動負債よりも大きいほど、短期的な資金繰りに余裕があるといえる。

(1.0未満の市場は改善するよう指導している)。

○経常利益については、直近3年間、赤字の卸売会社が増加しており、半数近くになっている。

○純資産比率については、0.1未満の卸売会社の割合は2割程度、流動比率については、1.0未満の卸売会社は1／3程度となっている。

4 地場産品の流通等に係る県内取組事例

(1) 通いコンテナによる地場農産物の出荷促進

	豊 田 市	豊橋中央青果
概 要	・出荷者にコンテナを貸出し、市場に出荷してもらう。 ・コンテナにより集荷された野菜はそのまま買受人に販売される。 ・野菜を販売した後、買受人により返却されたコンテナを洗浄して再び出荷者に貸し出す。	・軟弱野菜（葱、菜類など）を対象に出荷を開始した。 ・対象品目を大根などの重量野菜にも拡げるため、底のやや深いコンテナを追加して、現在2種類のコンテナで対応。
運営主体	豊田市公設地方卸売市場（豊田市公設地方卸売市場協会へ業務委託）	株式会社 豊橋中央青果市場
対象地域	主に西三河地域	豊橋市、豊川市、田原市、新城市
対象品目	ほうれん草、大根、小松菜、キャベツなど	大根、白菜、かぶ、葱、山東菜、水菜、小松菜、ほうれん草、春菊、キャベツ、カリフラワー、ブロッコリー、レタスなど
開始年度	昭和60年4月	平成3年度
実 績	平成23年度利用実績 コンテナ数 260,849 個 コンテナ出荷農家 158 （個人もしくは団体） 取扱量 約5%（野菜取扱量のうち）	平成23年度利用実績 コンテナ数 232,887 個 コンテナ出荷農家 226
特 徴	・2種類のコンテナを用意。 ・コンテナ貸出価格（1個30円）は段ボールより安価。 ・貸出コンテナの洗浄は豊田市公設地方卸売市場協会に委託。	・2種類のコンテナを用意。 ・コンテナ貸出価格（1個20円）はダンボールより安価。 ・貸出コンテナの洗浄は株式会社豊橋中央青果市場が行う。 ・両短辺に取付けハンドル付のコンテナにより、操作が簡単で作業性が良く、空箱時の収納効率に優れている。
効 果	・出荷労力や荷造経費が軽減される。 ・荷傷が少なく、鮮度が保持され、商品価値が高くなる。 ・市場の売場が立体的に使え、荷物の運営やせりがスピード化される。 ・豊田市場専用のコンテナを用意することで野菜が集めやすくなる。	・農家は出荷コストを軽減できる。 ・せり人・買受人は競売前の品質確認がしやすい。 ・段積みによりせり場を有効利用できる。 ・段ボールやポリ袋など資源の削減や廃棄物の減量化ができる。

(2) 品質管理高度化の取組（名古屋西青果株式会社）

(ア) 概 要

出荷者及び買受人（量販店等）からの鮮度保持要請に応じて、既設の保冷库を更新。

(イ) 設置時期

平成24年2月

(ウ) 設置面積

109㎡（従来の2倍の規模）

(エ) 効果

これまで県外産地からの荷物は、保冷車で昼に着くため、保冷車のままで、待機させていたが、保冷库の更新により、容量が倍増し、すぐ保管できるようになった。

また、地元出荷者も、鮮度を心配せずに、市場に出荷できるようになり、非常に評判がいい。保冷库の増設により、鮮度保持が向上した。

<参 考>

市 場 名 地方卸売市場豊橋中央青果[開設形態：民営]

所 在 地 豊橋市下地町

開設者・卸売業者 株式会社 豊橋中央青果市場

平成23年度取扱実績 野菜20億1274万円、果実9億6024万円

市 場 名 豊田市公設地方卸売市場[開設形態：公設]

所 在 地 豊田市高崎町

開 設 者 豊田市

卸売業者 愛知県中央青果株式会社・豊一豊田青果株式会社

平成23年度取扱実績 野菜51億8000万円、果実30億5692万円

市 場 名 地方卸売市場名古屋西流通センター[開設形態：第三セクター]

所 在 地 津島市高台寺町

開 設 者 名古屋西流通センター株式会社

卸売業者 名古屋西青果株式会社

平成23年度取扱実績 野菜25億4570万円、果実11億5455万円

(3) 共同配送の取組について（愛知名港花き卸売事業協同組合）

(ア) 概 要

(株)名港フラワーブリッジと日本植物運輸(株)が出資して(株)名港フラワーラインを設立し、名港花き卸売協同組合の組合員である(株)名港フラワーブリッジと各仲卸業者が共同で配送に利用する。

(イ) 運営主体

(株)名港フラワーライン

(ウ) 対象品目

花き類全般を中心とした利用者が取り扱う全ての商品

(エ) 開始年度

2010年3月開場と同時

(オ) 実 績

切花セリを行う月曜日、水曜日、金曜日が多く、中でも月曜日、金曜日が特に多い。月曜日、金曜日は株式会社名港フラワーブリッジからの委託は約40件、水曜日は約20件。

仲卸業者からの委託は月曜日、金曜日は約10件、水曜日は2～3件。

(カ) 特 徴

・夏場、全車保冷車を使用していることと、当日朝9時頃から配送しており品質劣化の心配が全くない。

・愛知名港花き地方卸売市場からの仕入れであれば同じ便で納品されるので、利用者（配送先）にとって便利である。

・(株)名港フラワーブリッジと名港花き仲卸協同組合の組合員である各仲卸業者が共同で(株)名港フラワーラインを利用するので効率的である。